

2016年12月26日

第10回複合材型加工研究会セミナー 開催趣旨

様々な包装材を使って成形される化粧箱、輸送箱、紙容器、樹脂容器等の印刷と成形に関する抜型加工は、印刷紙器業界の基盤技術であり、安定した高速生産と工具寿命予測の高精度化などが絶えず求められている。また同様の抜型技術は、フィルム類の複雑で微小な成形品の切断加工にもよく用いられ、その加工技術の工業的価値は高い。被加工材の多様性と進歩に対して加工技術の追従発展が期待されるが、従来、各種問題点の工学的な体系化や理論分析が十分にはなされていない側面がある。

当該「複合材型加工研究会」は、日本塑性加工学会の平成23年度学会活性化活動資金を受けて、セミナー等の活動を通じて、抜型加工の特徴ならびに板紙や樹脂を組み合わせた複合材の成形加工特性に関する基礎研究の実際問題への展開を目指して、平成23年9月に任意団体として抜型を研究する有志により設置された(代表:永澤茂)。その後、1年間の独自活動を経て、日本塑性加工学会の研究委員会(積層複合材精密抜加工研究委員会、平成24年4月～28年3月活動)と兼務で「型製造と抜型加工の技術に関する研究セミナー」を中心とした活動を行ってきた。平成28年4月からは、再び単独の研究会活動として、これまでに参加している抜型業界の技術者らを主な対象として無償での研究セミナーを継続している状況である。当該研究会の平成23年発起委員は、日本塑性加工学会の会員(永澤茂(技大)、福澤康(技大)、真鍋健一(都立大)、高辻則夫(富山大学)、村山光博(長岡大学)、日根哲(片山抜型)、山口大志郎(片山抜型)、鈴木茂和(福島高専))であった。平成28年12月現在、若干名の入れ替えはあるが、永澤茂、村山光博、日根哲、山口大志郎、鈴木茂和によって主要な企画活動を行っており、東京抜型工業会、関東甲信越静紙器段ボール箱工業連合会(従来から継続的に協力)ならびに新潟県内の関係する研究会との連携をはかって、研究セミナー等の開催を企画しているところである。

この度、現場の研究者や装置開発に携わる技術者にとって必要な要素技術的な抜型加工の基本原理を勉強してもらうことを目的として、研究セミナーの形で業界関係者と高専教員(3機関連携プレミアムブランド加工 Gr の構成員)ならびに本学学生へ**参加費無料の研究会**として呼び掛けることにした。開催期日と企画内容は、別紙プログラム(案)の通りである。また、集会を通じて、抜型加工に対する需要と共通の問題点を確認する交流の機会を提供したい。

事業関係者

複合材型加工研究会 代表 長岡技術科学大学 永澤 茂

代表以外の企画共同構成員(実行委員)

長岡大学 村山光博(学長、教授)、福島高専 鈴木茂和(准教授)、山口大志郎(片山抜型、営業課長)、日根哲(片山抜型、製造課長)、渡辺篤(吉沢工業、営業部企画課長代)